

幸田弘子の会 優美VS幽美

怪かしの異界に遊ぶ秋

出演 ● 幸田弘子

演出 ● 池田一臣



「源氏物語千年紀」の今年、

この代表的な古典作品より、もつともドラマチックな

「葵」をとりあげます。

六条御息所の心理的葛藤が生み出す「異界」とは――。

そして異界の探索者、内田百閒が生み出す

摩訶不思議でユーモラスな話の数々も、

大変興味深いものです。

知、繊細、みやび、幻想、恐怖……

それぞれ異なった味わいをもちつつ、

うつろいゆく人間の姿を描きだした作品を

お楽しみください。

◆紫式部 作

瀬戸内寂聴 現代語訳

「源氏物語」より「葵」(構成 三田村雅子)

フルート・福島明佳

◆内田百閒 作

「花火」「豹」「蜻蛉玉」など

ジャズフルート・奥泉光

(演目は変わる場合がございます)



日時 平成20年11月5日(水)～7日(金)

会場 紀尾井小ホール

●開演時間 *公演日により、開演時間が異なります。十分ご注意ください。

11/5(水)	11/6(木)	11/7(金)
午後3時	午後2時	午後2時
午後7時	午後7時	午後7時

●入場料 一般 4,500円(全席指定)

●予約・お問い合わせ

幸田弘子の会 ☎(03)3655-2705
(10時～6時、土・日・祝休)

●前売券取扱

紀尾井ホール・チケットセンター
☎(03)3237-0061
(10時～7時、日・祝休)

◆紫式部作 「源氏物語」より「葵」

構成 三田村雅子（フェリス女学院大学教授）

古典中の古典「源氏物語」が誕生してから、ちようど千年。今回はそのなかでも、王朝の『優美』がドラマチックな『幽美』に変貌するという、怪異と切なさに満ちた一卷「葵」を原文と現代語訳で読ませていただきます。源氏の君の妻・葵の上と、宿敵・六条御息所が、祭のさなかに車同士の争いを演じ、傷ついた六条御息所が生きたまま凄まじい怨霊、つまり生き霊となって葵の上にたたるというお話です。あいだに挟む現代語訳は、定評ある瀬戸内寂聴さんの手になるものです。フルートの福島明佳さんが生演奏で色を添えてくださいます。

◆内田百閒作 「花火」「豹」「蜻蛉玉」など

内田百閒は岡山の造り酒屋の一人息子として誕生し、夏目漱石門下の二員となった小説家、随筆家です（1889～1971）。名随筆家として知られ「阿房列車」「百鬼園随筆」などの作品を多数残しています。枯れた作風のイメージが強い百閒ですが、作品のなかには非常にユニークで幻想的な短編小説もあります。「花火」「豹」「蜻蛉玉」は、夢とも現ともつかない不思議な世界を描いた作品。えも言われぬ世界を、奥泉光氏（芥川賞作家で内田百閒文学賞選考委員）のジャズフルートの調べとともにお楽しみください。

幸田弘子プロフィール



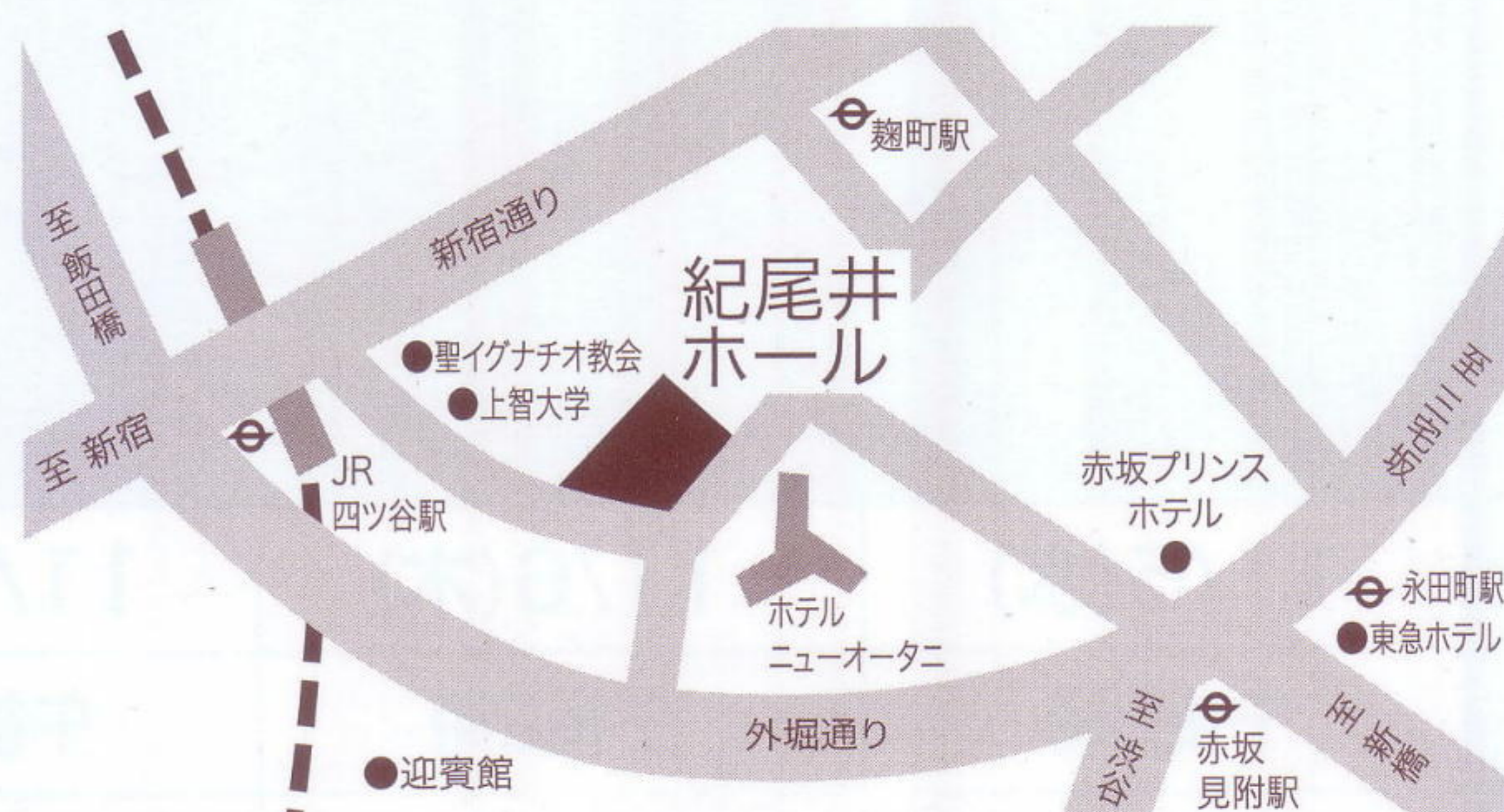
東京生れ。NHK東京放送劇団に入り、放送・舞台で活躍。主演した三善晃作曲、音楽詩劇「オンディーヌ」は文部大臣賞、イタリヤ賞大賞を受賞。舞台で古典から現代文学作品までの朗読を続け、1977年から毎年「幸田弘子の会」を開催、樋口一葉を中心に、『源氏物語』や泉鏡花・森鷗外・夏目漱石・瀬戸内寂聴の作品など、古典から現代まで舞台で朗読。舞台朗読という新しい分野を確立した功績に対し、81・82・84年と続けて芸術祭優秀賞受賞。さらに84年度芸術選奨文部大臣賞、95年毎日芸術賞、96年紫綬褒章、02年藤村記念歴程賞受賞。99年より『源氏物語』、『おくのほそ道』などによる「古典を読む」会の連続公演も開始している。01年から「源氏語り五十四帖」と題して『源氏物語』の原文を、彩の国さいたま芸術劇場（年6回・9年間）で読み始めている。03年秋の叙勲において旭日小綬章を受章。05年から軽井沢の大賀ホールで堀辰雄作品などの朗読公演を毎年開催。

日時：平成20年11月5日(水)～7日(金) 会場：紀尾井小ホール

●開演時間 *公演日により、開演時間が異なります。十分ご注意ください。

11/5(水)	11/6(木)	11/7(金)
午後3時	午後2時	午後2時
午後7時	午後7時	午後7時

- 入場料 一般4,500円(全席指定)
- 予約・お問い合わせ 幸田弘子の会 ☎(03) 3655-2705 (10時～6時、土・日・祝休)
- 前売券取扱 紀尾井ホール・チケットセンター ☎(03) 3237-0061 (10時～7時、日・祝休)



最寄駅
 ・四ツ谷駅(JR線・丸ノ内線・南北線)徒歩6分
 ・魏町駅(有楽町線)徒歩8分
 ・赤坂見附駅(銀座線・丸ノ内線)徒歩8分
 ・永田町駅(半蔵門線・有楽町線)徒歩8分